令和6年度第4回

札幌市犯罪のない安全で安心なまちづくり等審議会

議 事 録

日 時：2025年3月25日（金）午後1時30分開会
場 所：札幌市役所本庁舎 12階 2・3号会議室

1. 開 会

○事務局（江積区政課長）

本日は、お忙しいところお集まりをいただき、ありがとうございます。

私は、区政課長の江積でございます。本日もよろしく願いいたします。

ただいまより、令和6年度第4回札幌市犯罪のない安全で安心なまちづくり等審議会を開催いたします。

開会に当たりまして、市民文化局長の前田から、一言、ご挨拶を申し上げます。

○前田市民文化局長

本日は、年度末の何かとお忙しいところ、札幌市犯罪のない安全で安心なまちづくり等審議会にご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。大変早いもので、この第8期の審議会も定例のものとしては本日が最終回となります。

今期の審議会を振り返りますと、まず、昨年度は、検討部会を設置し、集中的なご審議を頂戴し、令和6年3月に再犯防止推進計画を策定することができました。また、今年度は、札幌市犯罪被害者等支援条例と第4次札幌市犯罪のない安全で安心なまちづくり等基本計画についてご審議をいただき、条例につきましては先月の市議会で可決され、第4次基本計画も今月末までに策定を予定しているところです。

この2年間、委員の皆様のお力添えを頂戴しまして、これまで懸案であったものも含め、一定の目に見える形として成すことができたのではないかと、そして、これからの取組に新たな一歩を刻むことができたのではないかと考えております。改めまして、皆様のご尽力に心から御礼申し上げます。

誰もが安全に安心して暮らせるまちづくりは、非常に幅広い人々の暮らしに関係があるものでして、我々行政だけでは到底実現できないと認識しております。札幌市といたしましては、今後、関係機関や団体の皆様、そして、市民の皆様と連携をますます深め、安全・安心なまちづくりを一層進めてまいりたいと考えております。どうか、皆様におかれましては、これからもそれぞれのお立場から引き続きのお力添えを賜りますように、また、重ねて感謝の気持ちを申し述べさせていただき、私からの挨拶とさせていただきます。

本当にありがとうございました。

○事務局（江積区政課長）

ここで前田市民文化局長は、他の公務の都合で退席させていただきます。

それでは、説明に入る前に事務局から本日の資料並びに留意事項等についてご連絡させていただきます。

まず、本日の資料は資料1-1から資料3-3になります。また、座席表、委員名簿、審議会規則を机上に配付させていただいております。

次に、留意事項ですが、本審議会は公開となっており、議事録の作成や広報等に利用するため、会議内容の録音と会場の撮影をさせていただきます。ご発言される場合は、お手元のハンドマイクを使っていただきますようお願い申し上げます。

留意事項等の説明は以上になります。

本日は、12名の委員にご出席をいただいております。札幌市犯罪のない安全で安心なまちづくり等審議会規則第5条第3項に基づく定足数を満たしておりますので、この会議は成立しておりますことを申し添えます。

それでは、審議会規則に従いまして、以降の進行を神元会長にお願いしたいと思います。神元会長、よろしくお願いいたします。

2. 議 事

○神元会長

それでは、議事に入ります。

次第1について事務局から説明をお願いします。

○事務局（下川原地域防犯担当係長）

私からは、令和6年度取組のうち、第3次札幌市犯罪のない安全で安心なまちづくり等基本計画に基づく取組についてご説明いたします。

資料1-1の「令和6年度における地域防犯の取組について」をご覧ください。

初めに、第3次計画の進捗状況を把握するために設定しました成果指標の達成状況についてです。

こちらの資料には第3次計画の三つの指標である「(1) 刑法犯認知件数」、「(2) 自ら犯罪に遭わないよう防犯意識をもって暮らしている市民の割合」、「(3) 地域で防犯活動を行っている市民の割合の推移」についてお示ししております。

これらの達成状況については、昨年の審議会第4次計画案のご審議をいただいた際に事務局からご説明しておりますので、改めての説明は割愛させていただきますが、「(1)の刑法犯認知件数」については、先日公表されました令和6年の数値を掲載しております。

令和6年の刑法犯認知件数は1万1,430件と、令和4年から3年連続で増加しました。刑法犯認知件数が増加した要因についてはこの後の犯罪情勢に関するところでご説明いたします。

続きまして、2ページをご覧ください。

2ページから7ページまでは、「札幌市の犯罪情勢」として、各種統計データを掲載しております。本日は、先日に公表されました令和6年の状況を中心にご説明いたします。また、8ページから15ページまでは、「市民意識の実態」として、札幌市民を対象としたインターネットアンケートの結果を掲載しております。こちらは第4次計画にも掲載している内容であり、昨年の審議会において説明済みとなっておりますので、本日の説明は割愛させていただきます。

続いて、16ページから24ページまでは、「第3次計画に基づく取組状況について」で、今年度実施しました主な取組をご説明いたします。最後に、25ページは「第3次計画の総括と方向性」をまとめております。こちらの内容は、第4次計画の検討段階にお

いてご審議をいただき、ご了承をいただいておりますが、改めてご説明いたします。

それでは、2ページの「2 札幌市の犯罪情勢について」の「(1) 刑法犯認知件数の推移」をご覧ください。

こちらのグラフは、令和元年以降の全国、北海道及び札幌市の刑法犯認知件数の推移を表しております。

先ほど札幌市の刑法犯認知件数についてご説明させていただきましたが、全国と北海道についても、令和3年まで減少を続けた後、令和4年から3年連続で増加している状況です。

札幌市における刑法犯認知件数の増加の要因については、3ページの「包括・罪種別・認知件数の推移」の表をご覧ください。

こちらは、札幌市の刑法犯認知件数を罪種別に示したものになりますが、令和6年中の知能犯が前年に比べて94件、約25%の増加、風俗犯が前年に比べて105件、約41%の増加となっており、全体の件数の増加に影響を与えております。

知能犯の件数については、詐欺による犯罪行為が含まれておりますので、SNSを悪用した投資詐欺やロマンス詐欺の急増が件数増の一つの要因と考えております。また、風俗犯の増加については、令和5年7月の刑法改正により性犯罪に関する規定が見直されたことが影響しているものと考えられます。

次に、4ページの「(3) 窃盗犯の手口別認知件数」をご覧ください。

刑法犯認知件数の中で最も多い罪種は自転車盗となっておりますが、こちらはその内訳を示したものとなります。最も多い手口は自転車盗でして、札幌市における令和6年の件数は3,470件と、全体の約45%を占めている状況です。

続きまして、5ページの「(5) 子どもの犯罪被害状況」をご覧ください。

ここで、1点、お詫びがあります。

先ほどの4ページでは「(3)」とあり、こちらに移ると「(5)」となっております。「(4)」が抜けていますが、これは誤りですので、訂正させていただきます。ページの抜けがあるわけではございませんので、ご承知おきください。

それでは、説明に戻ります。

刑法犯認知件数と同様の傾向が見られ、子どもの被害件数については前年から214件増の4,302件、前兆事案については前年から70件増の243件となっております。

続きまして、6ページの「(6) 特殊詐欺被害の認知件数」をご覧ください。

札幌市における特殊詐欺の認知件数は、令和6年で83件となっており、そのうち、高齢者の被害件数については44件と半数以上を占めております。また、令和6年の被害総額は約2億6,700万円となっており、前年から約25%の増となっております。

なお、この特殊詐欺被害の被害件数、被害額にはSNS型投資・ロマンス詐欺の被害件数、被害額は含まれておりません。

続きまして、7ページの「(7) 令和6年における特殊詐欺被害件数及び被害額の内

訳」をご覧ください。

手口別に見ますと、件数、被害額が最も多いのはオレオレ詐欺となっており、次いで架空請求詐欺となっております。

続きまして、7ページ下の点線囲みの中に、札幌市における令和6年のSNS型投資・ロマンス詐欺の被害状況を掲載しております。

こちらは、集計を開始した4月からの統計となりますが、SNS型投資とロマンス詐欺の総件数は54件、被害総額は約10億8,200万円となっております。特殊詐欺の被害額が約2億6,700万円でしたので、約4倍の被害が生じている深刻な状況となっております。

続きまして、8ページから15ページまでの「3 市民意識の実態」については、先ほど申し上げましたとおり、本日の説明は割愛させていただきます。

続きまして、16ページの「4 3次基本計画に基づく取組状況」をご覧ください。

今年度を実施しました主な取組を、基本方針ごとにまとめておりますので、順にご説明いたします。

最初に、基本方針1の「自らの安全を確保するため、市民一人ひとりの防犯に対する関心を高める」に基づいて実施した取組について説明いたします。

まず、「(1) 啓発」をご覧ください。

出前講座については、「防犯カメラを生かしたまちづくり」、「子どもの防犯教室」、「特殊詐欺被害に遭わないために」など、六つのテーマで実施しました。今年度は、現時点で62回実施しており、受講者は約3,000人となっております。また、関係団体等の皆様と連携したパネル展や街頭啓発を10月及び11月に実施いたしました。

続きまして、次のページの「(2) 広報」をご覧ください。

特殊詐欺被害防止の広報については、令和5年度に引き続き、敬老の日の時期に合わせた重点的な啓発を行いました。札幌市から発行している特殊詐欺被害防止のチラシについては、SNS型投資・ロマンス詐欺の注意喚起を掲載する改訂を行ったほか、コンビニとの連携や中央図書館における特集コーナーの設置などの取組を行いました。

次に、広報さっぽろによる啓発についてですが、令和6年5月号にSNS型投資・ロマンス詐欺の被害防止に関する記事を、令和7年3月号に自転車盗被害防止に関する記事を掲載し、啓発を行いました。

次のページの北海道警察及び北海道防犯協会連合会と連携したSNS型投資詐欺防止の啓発ですが、札幌市との連名で作成したポスターを市有施設に掲出し、市民への注意喚起を行いました。

続きまして、基本方針2の「みんなの暮らしを守るため、お互いに協力し支え合うまちをつくる」に基づき実施している取組について説明いたします。

「(1) 防犯活動促進及び子どもの見守り」の1項目の「ながら見守り活動」については、日常活動の中で防犯の視点を持って地域の見守りを行っていただく制度として、令

和4年6月に開始したもので、現在の登録者数は8,235人、登録事業者・団体数は229となっております。

次に、「子ども110番の家支援」については、子ども110番の家に登録していただいた方に対して、目印となるステッカーや対応の手引を配付しております。また、子どもの避難に伴い、物的、人的な被害を受けた際には見舞金をお支払いするため、公費による保険加入を行っております。

続きまして、次のページの「地域安全サポーターズ」については、事業者等が、札幌市内における安全・安心の実現に向け、社用車等による防犯パトロール、事務所等を子どもの駆け込み場所に設定する、環境の美化活動に取り組むなどの防犯活動に取り組む制度で、現在は1,053件の事業者に登録していただいております。

次に、「札幌市安全で安心なまちづくり功労者表彰」については、防犯活動などに貢献されております個人や団体の皆様を表彰するもので、令和6年度は前回の審議会において決定しました防犯部門と更生保護部門の受賞者の皆様を表彰いたしました。

次に、「(2) 協働による連携体制の充実」の「札幌市犯罪のない安全で安心なまちづくり等協議会」については、地域、事業者、札幌市による連携、協力や情報共有を目的とした会議体です。今年度は、令和7年3月6日に開催し、札幌市の取組の報告や北海道警察による講話を実施いたしました。

続きまして、20ページの基本方針3の「犯罪が起きにくいまちをつくるため、環境の安全性を高める」に基づき実施しております取組についてご説明いたします。

「(1) 市民自らが行う環境整備促進」の取組としましては、町内会への防犯カメラ設置補助を実施しており、平成30年度の制度開始以降、これまで延べ150団体に対して累計486台の補助を実施しました。

続いて、「(2) 歓楽街対策」についてご説明いたします。

「薄野地区の安全・安心の実現に向けた関係機関・団体との連携」の取組としましては、官民協働で薄野地区の魅力向上や活性化を目指すクリーン薄野活性化連絡協議会の総会において、客引き等の状況について報告いたしました。

また、毎年2回、夏と年末に北海道警察等の関係機関・団体が集まり、薄野地区の安全・安心の実現に向けたパトロールを実施しております。

次に、21ページの「客引き行為等の防止」についてご説明いたします。

市内中心部の禁止区域で行われる客引き行為等を防止するため、指導員が毎日巡回し、客引き行為等を行う者に対し、指導等を実施しております。また、客引き行為等の防止に向けた広報啓発については、客引き行為等を行った者に対する啓発チラシの配付、飲食店の戸別訪問、地下鉄駅掲示板へのポスター掲示、大型ビジョンでの放映、ホテルへのチラシ配架、市公式Xを活用した啓発のほか、北海道警察との合同による街頭啓発や地下鉄車内広告の掲出も実施しました。さらに、今後のさらなる啓発における活用を想定し、現在、客引きの利用防止を呼びかける動画等の広報素材を制作しているところです。

続きまして、次のページの「客引き行為等に対する指導等の状況」についてご説明いたします。

令和6年4月から令和7年2月末までの累計で、口頭指導が1万1,713件、文書指導が47件、勧告が9件、命令が2件となっております。

続きまして、「客引き行為等の実態調査結果」についてです。

実態調査は、調査範囲内において、特定の者に対し、客引き行為等を行った者をカウントしているもので、各月1回金曜日に実施しております。表の数字は1時間当たりの平均人数となります。

条例制定前の令和3年度調査では、1時間当たりの客引きの人数は54.9人でしたが、条例制定後の令和4年度調査では28.8人と、およそ半減いたしました。一方で、今年度の2月までの調査では、地区全体の平均値は、令和5年と比較して10.1人増加しており、特に表の一番下の南3条から南7条周辺の増加が顕著となっている状況です。

札幌市としましては、引き続き、広報啓発により、客引きを利用しないことに関する市民意識の向上や、事業者の理解促進に取り組んでいきたいと考えております。また、風俗店などのスカウトには、匿名・流動型犯罪グループ、いわゆるトクリュウの関与が指摘されていることや、悪質な客引きを利用して過大に支払われた代金が、反社会的勢力の資金源になっているといった点も考慮しますと、客引き対策には、風営法や北海道迷惑行為防止条例などに基づいて取締りを行っている警察との協力が不可欠と考えております。そこで、今後も警察や関係団体との連携を強化しながら、客引き抑制に向けた取組を推進していきたいと考えております。

続きまして、23ページの基本方針4の「犯罪被害者等が再び平穏な生活を営むことができるよう支援する」に基づき実施しております取組についてご説明いたします。

札幌市では、「情報発信・広報啓発」として、犯罪被害者等に関する市民の理解促進を目的とした市民セミナーや、犯罪被害者週間に合わせた街頭啓発を、北海道家庭生活総合カウンセリングセンター、北海道、北海道警察とともに実施しております。また、窓口対応等での2次被害の防止等を目的とした職員研修を、1月に実施しております。

「相談窓口の設置・情報提供」としましては、犯罪被害者等が日常生活を円滑に営むことができるよう、総合的対応窓口や各種相談窓口を設置しております。

次の「犯罪被害者等支援制度」についてですが、次のページの「支給実績」をご覧ください。

令和6年度は、2月末までの時点で、過去2年の支給実績を上回る合計85人、111件の支援を行ったところです。

最後に、25ページをご覧ください。「第3次計画の総括と方向性」についてです。

第3次計画に定められた取組については、おおむね実施してきたところであり、犯罪被害者等支援制度の創設や、客引き行為等の防止に関する条例の施行など、社会的な問題へ

の対策にも取り組んでまいりました。成果指標の達成状況からは、犯罪の抑止に向けた各種取組をさらに実施していく必要があることが、課題として浮かび上がりましたが、札幌市が犯罪の被害に遭わずに、安全に安心して暮らせるまちと思う人が増加している状況を踏まえると、第3次計画の一定の成果が表れたものと分析しております。

こうした第3次計画の成果と課題を踏まえ、第4次計画に向けた今後の方向性としましては、一番下の囲みにありますとおり、第3次計画において実施してきた市民の防犯意識を高め、刑法犯認知件数を減少させていく取組を引き継ぐとともに、課題である自転車盗対策、子どもの安全確保に向けた取組、特殊詐欺やインターネット、SNSを通じた犯罪被害防止対策などの充実を図り、闇バイトなどの新たな課題に関しても対策を講じることが必要であると整理したところです。

第3次計画の取組に関する説明は以上です。

○事務局（鈴木犯罪被害者支援担当係長）

引き続きまして、次第1の「(2) 札幌市再犯防止推進計画に基づく取組」についてご説明いたします。

次第1の(2)に関する配付資料は、資料1-2の「令和6年度取組について」、及び資料1-3の「札幌市再犯防止ネットワーク会議における取組報告」の2種類です。

昨年度に、皆様に審議していただきましたが、札幌市では、令和6年3月に札幌市再犯防止推進計画を策定いたしました。本日は、お時間の都合上、直近の成果指標、参考指標の状況と、今年度の主立った取組に絞ってご説明させていただきます。

まず、資料1-2の「令和6年度取組について」をご覧ください。

本計画の成果指標ですが、2項目を設けておりまして、一つ目は「札幌市における再犯者数」、二つ目は「市民アンケートにおける犯罪をした人等の立ち直りに協力したいと思う、または、どちらかといえば思う人の割合」です。

1ページの「刑法犯検挙者中の再犯者数」からご説明いたします。

資料の表のとおり、札幌市における再犯者数は、計画策定時の令和4年の数値が1,411人でしたが、最新のデータの令和5年は1,662人と増加しております。令和9年の目標値が1,190人としておりましたので、目標値から遠ざかる結果となっております。

中央の全国の状況を表す棒グラフのとおり、全国的な流れとして、最新の国の再犯防止推進白書によりますと、緑色の棒グラフの刑法犯検挙者数は、これまで減少傾向にありましたが、令和5年に増加に転じております。また、黄色の棒グラフの刑法犯検挙者数中の刑法犯再犯者数も、平成19年以降は減少してございましたが、今回、17年ぶりに増加しております。

一方で、同じく全国の赤色の折れ線グラフのとおり、刑法犯再犯者率は令和3年から減少に転じておりまして、その傾向を維持し、令和5年は、前年から0.9ポイント減少し、47.0%となっております。

その下の札幌市の状況を表す棒グラフ及び折れ線グラフのとおり、札幌市においても、全国的な流れと同様に、刑法犯検挙者数中の再犯者数は増加している一方で、再犯率は、前年から0.8ポイント減少し、45.5%となっております。

今回、刑法犯検挙者数が増加した要因は様々考えられますが、可能性としては、令和5年の数値ですので、新型コロナウイルス感染症の影響が緩和され、人々の移動や活動が増加したことにより、犯罪の発生件数が増加したということが推察されます。そのような中でも、直近の再犯率の減少の傾向は維持しているという結果となっております。

次に、2ページのもう一つの成果指標であります「犯罪をした人等の立ち直りに協力したいと思う、または、どちらかといえば思う人の割合」についてです。

こちらは、計画策定時の令和5年度の調査の数値が27.7%でしたが、令和6年度の調査の数値は、4.7ポイント減少し、23.0%でした。令和10年度の目標値を50%以上としておりましたので、こちらも目標値から遠ざかる結果となっております。

令和5年度調査と比較し、令和6年度調査の犯罪をした人等の立ち直りに協力したいと思う、または、どちらかといえば思う人の割合が低調となった要因を断定することはできませんが、今年のアンケートを実施した時期が令和6年6月中旬であり、期せずして滋賀県大津市で保護司が面談中に殺害され、担当保護観察対象者が殺人容疑で逮捕されるという事件があったすぐ後のタイミングでの実施となりました。この時期に、この事件についての報道等もなされた影響が少なからずあったかもしれないと受け止めているところです。

続いて、再犯防止施策の動向を多方面から把握するために、本計画において設定した参考指標の状況を表にまとめております。総じて数値は良い方向に推移しておりますが、下から2行目及び3行目の保護司数及び保護司充足率の数値は悪化しており、保護司の成り手不足という課題が明らかになっております。

本計画における各指標の状況についてのご説明は以上です。

次に、令和6年度各種取組についてです。

資料1-3の「札幌市再犯防止ネットワーク会議における取組報告」に移りますので、こちらをご覧ください。

本計画では、重点項目ごとに市役所の各部局において実施する取組を掲載し、継続して各取組を実施しているところであり、それぞれの取組が再犯の防止等に寄与しているものと考えております。本日は、今年度に新たな取組として実施した札幌市再犯防止ネットワーク会議における取組をご報告いたします。

まず、「1 札幌市再犯防止ネットワーク会議の概要」についてです。

札幌市再犯防止ネットワーク会議とは、本計画の重点項目の一つである国、民間団体等との連携強化等の取組として、今年度、刑事司法関係機関や更生保護関係団体等で協働して再犯防止に関する取組を推進する体制を構築するため、新たに設置した会議体のことを指します。

所掌事務としては、札幌市再犯防止推進計画に基づく取組の推進全般に関することです。

各取組の推進はもちろん、顔が見える場での意見交換のほか、協働して取組を行うことにより、各機関・団体が連携協力し、日々の活動を行う際にも切れ目なく効果的な支援が実現できるような体制構築を図ることも設置目的の一つと考えております。

本会議の構成団体として、「(3) 構成団体」に記載のとおり、札幌矯正管区、札幌保護観察所の官公庁の機関に加え、本日委員として参加していただいております札幌市保護司会連絡協議会、札幌市更生保護女性会、札幌協力雇用主会連合会といった再犯防止推進の核となる機関、団体等に参加していただきました。

再犯を防止するためには、犯罪をした人等が抱えている課題の解消に向けて関係機関が連携を強化し、施策を進めていくことが効果的であると考えておりまして、今後、継続して再犯防止に資する効果的な取組を協働して推進してまいります。

続きまして、2ページの会議設置初年度である今年度を実施した具体的な取組についてご報告いたします。

このネットワーク会議では、集合形式での会議の場で、再犯防止に係る事例研究、意見交換等も行いましたが、そのほか、具体的な取組として、市有施設でのパネル展及び商業施設での広報イベントを実施いたしました。

パネル展では、10区を5区ずつの2グループに分け、前半、後半で、各3日間、再犯防止に関する広報啓発パネルを展示しました。また、各種パンフレットの配架に加え、札幌矯正管区のご協力の下、札幌矯正管区の取組に関する展示を行ったほか、一部の会場で刑務作業品の展示も行いました。

資料に実際のパネルを数枚抜粋して掲載しておりますが、再犯の防止に日頃なじみのない市民にとっても分かりやすいような内容、構成となるような意図で作成し、今後継続して使用していく想定です。

次に、3ページの「広報イベント」では、東区のアリオ札幌のイベントスペースを使用し、様々なコーナーを設け、広報啓発を行いました。

ネットワーク会議の構成団体の皆様と聞き手役との対談を行うステージをはじめ、刑務所作業品や更生保護関係グッズを景品とした再犯防止に関するクイズラリーなど、普段再犯防止になじみのない市民にも来場していただけるような内容としました。

来場者の層としては、このイベントが目当てというわけではなく、アリオ札幌に用事のある方がほとんどでありましたが、様々な年代の方に広報を行うことができたと感じております。

次に、4ページと5ページですが、パネル展及び広報イベントの来場者数やアンケート結果を記載しております。

来場者数については、再犯防止という集客面ではなかなか難しい分野ではありますが、一定程度の市民の皆様にも再犯防止に触れていただく機会を設けられたのではないかと受け止めております。また、先ほどご説明いたしました、札幌市再犯防止推進計画の成果指標の一つである「犯罪をした人等の立ち直りに協力したいと思う、または、どちらかといえ

ば思う人の割合」について、同様の質問をパネル展のアンケート、広報イベントのアンケートの双方で実施しました。パネル展での結果を4ページに、広報イベントでの結果を5ページにそれぞれ円グラフで掲載しておりますが、パネル展で92.2%、広報イベントで92.0%と非常に高い結果となりました。

パネル展については、再犯防止に関心のある方に回答していただくことが多かったものと推察されますが、広報イベントでは、ファミリー層など、老若男女様々な方に回答していただきまして、いわゆる一般市民の層から幅広く回答がなされた結果であり、広報啓発によって、犯罪や非行をした人の立ち直りへの支援に関する理解を広めていくことが可能であるとの認識を新たにするとともに、地道に広報啓発活動を行っていくことが重要であると改めて感じたところでございます。

引き続き、札幌市として計画に記載した各種取組を継続していくとともに、札幌市における、再犯防止の取組の核となる札幌市再犯防止ネットワーク会議での取組を充実させることにより、安全で安心なまちづくりの実現に向けて取り組んでまいります。

私からの説明は以上でございます。

○神元会長

それでは、ただいま説明のあった内容について皆様からご意見やご質問はありませんか。

資料1-1の2ページの「令和4年（2024年）」と書かれておりますが、「2022年」ですね。

○事務局（下川原地域防犯担当係長）

失礼いたしました。訂正させていただきます。

○神元会長

ほかにございませんか。

○皆川委員

資料1-2の2ページの表の一番下の「社会を明るくする運動への参加人数」についてです。

令和4年から令和5年にかけて特に増加しておりますが、この理由について説明してください。

○事務局（鈴木犯罪被害者支援担当係長）

新型コロナウイルスの関係で、屋外や公共施設での活動について縮小や中止が相次ぎました。しかし、令和5年からはそれが戻りつつあり、活発に活動されているようになり、このような伸び方になっております。

○神元会長

ほかにございませんか。

（「なし」と発言する者あり）

○神元会長

続きまして、次第について事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（鈴木犯罪被害者支援担当係長）

続きまして、札幌市犯罪被害者等支援条例の制定についてご説明いたします。

資料２－１の「（仮称）札幌市犯罪被害者等支援条例（素案）パブリックコメント実施結果（概要版）」、資料２－２の「（仮称）札幌市犯罪被害者等支援条例の制定に対するご意見の概要と札幌市の考え方」、資料２－３の「札幌市犯罪被害者等支援条例」の３種類を用います。

まず、前回の９月の審議会から時間も経っておりますので、条例制定に至るまでの経過について、簡単にご説明いたします。

令和６年度の第１回から第３回までの審議会におきまして、委員の皆様には本条例の制定についてご審議をいただきました。そして、令和６年９月１１日に、神元会長から審議内容をまとめた答申書を、札幌市長宛てに手交していただきました。その後、その答申書の内容を基に、札幌市として条例の素案を作成し、市議会に報告の上、昨年１１月１５日から１２月１６日までの間にパブリックコメントを実施したところでございます。

パブリックコメントの内容については、資料２－１及び資料２－２に掲載しております。

資料２－１がパブリックコメントを抜粋した概要資料として、資料２－２はパブリックコメントの意見の概要と札幌市の考え方を記載した、ホームページにも公表しております資料となります。

本日は、資料２－１の概要資料を用いてご説明いたします。

項目２のとおり、ご意見としましては、５人、１団体から合計３８件のご意見をいただきました。また、項目３のとおり、パブリックコメントを踏まえ、条例素案からの修正は行っておりません。

パブリックコメントでの主なご意見としては、項目４の（１）や項目４の（３）にありますように、具体的な規定ぶりの提案のほか、特定の文言を規定に盛り込むべきという要望など、規定の内容に直接関係するもの、また、この資料には抜粋しておりませんが、具体的な今後の犯罪被害者等支援施策の内容に関するものでした。

規定の内容に関する意見については、盛り込むことを要望する具体的な文言の要素が、条例素案の規定内容に含まれるものであることから、条例素案から修正を行わないとの判断をしたところです。

今後の犯罪被害者等支援施策の内容に関するご意見については、他都市の事例を踏まえた個別具体の詳細な支援策に関するご意見、支援金の項目に係るご意見など、いずれも貴重なご意見でありましたことから、今後の犯罪被害者等支援施策の検討実施に当たっての参考としたいと考えております。

なお、そのほか、資料２－１の概要資料に抜粋しておりますように、項目４の（２）の審議会での議論がありました「再び平穏な生活を営む」という犯罪被害者等基本法の規定で用いられる文言に関する意見や、項目４の（４）の給付金制度に関する意見、項目４の（５）の支援の必要性に関する意見など、様々な意見がありました。

資料２－２に記載しております、３８件全てのパブリックコメントの意見及び札幌市の考え方については、時間の都合上、説明は割愛させていただきます。

このパブリックコメントを経まして、令和７年第１回定例市議会に札幌市犯罪被害者等支援条例案を掲出し、市議会における本条例案の審議を終え、先日、この条例案が可決、成立いたしました。

なお、本条例の施行日は令和７年４月１日となっております。

可決されました条例は、資料２－３のとおりとなります。条例の内容については、昨年９月に答申していただいたものを、条例の規定として整理した構成としております。答申から内容や要素は変更しておりませんので、こちらの説明も割愛させていただきます。

私からの説明は以上でございます。

○神元会長

ただいま説明のありました内容について、皆様からご意見やご質問等はありませんか。

（「なし」と発言する者あり）

○神元会長

続きまして、次第３について、事務局から説明をお願いします。

○事務局（下川原地域防犯担当係長）

第４次札幌市犯罪のない安全で安心なまちづくり等基本計画の策定について、ご説明いたします。

第４次基本計画については、札幌市犯罪被害者等支援条例と併せ、審議会におけるご審議を重ねていただき、令和６年９月１１日に、神元会長から札幌市長に答申書を手交していただいたところです。その後、答申書を基に、市役所内部での議論を重ねた計画案を作成し、市議会に報告の上、１１月２５日から１２月２４日までの約１か月間、パブリックコメントを実施いたしました。

まず、資料３－１をご覧ください。

こちらは、３月７日に公表しましたパブリックコメントで寄せていただいたご意見の概要と、札幌市の考え方をまとめた資料となります。

１ページの「２ 提出者ご意見の内訳」の（１）に記載されておりますとおり、ご意見は２名、１団体から合計１３件いただきました。また、「（３）ご意見の内訳」のとおり、第１章の計画の策定にあたってに関するご意見が５件、第４章の計画体系の取組に関するご意見６件と、全体の大半を占めております。

ご意見の詳細については、２ページ以降に記載しております。お時間の都合もありますので、詳細は割愛させていただきますけれども、犯罪被害者等支援に関するご意見や、地下鉄車内の防犯カメラに対するご意見が多く寄せられております。

今回、ご意見に基づく計画の変更はございませんでしたが、札幌市としましては、貴重なご意見として今後の取組の参考にしたいと考えております。

続きまして、資料３－２の計画の本書をご覧ください。

こちらは、答申書から内容に大きな変更はございません。ただ、内容のご説明は割愛させていただきますけれども、後半に資料編を追加しておりますので、簡単にご紹介させていただきます。

6 1 ページをご覧ください。

審議会委員名簿を掲載しており、本計画の審議にご協力をいただきました4名の臨時委員についても掲載しております。

次に、6 2 ページをご覧ください。

本計画の諮問から答申に至るまでの審議過程を掲載しております。

次に、6 3 ページをご覧ください。

パブリックコメントの実施概要と意見募集結果を掲載しております。

次に、6 4 ページをご覧ください。

政令指定都市における令和5年の刑法犯認知件数及び罪種別の内訳を掲載しております。

最後に、6 5 ページ以降ですが、本計画に関連する条例を掲載しております。

続きまして、資料3-3の概要版をご覧ください。

表紙をめくっていただき、1 ページと2 ページには、犯罪の現状と課題として、各種統計データやインターネットアンケート結果に加え、第3次計画の総括と方向性を掲載しております。

3 ページ、4 ページをご覧ください。

左手に計画策定の趣旨や基本目標などを、右手には成果指標や推進体制を掲載しております。

5 ページ、6 ページをご覧ください。

四つの基本方針に合わせて整理した取組の一部をご紹介します。

以上、簡単に計画の本書と概要版をご説明させていただきましたけれども、本日お配りしている資料が最終稿となります。現在、印刷、製本等の手続を進めているところでして、冊子が出来上がり次第、委員の皆様へ送付させていただきますので、確認をよろしくお願いいたします。

説明は以上となります。

○神元会長

ただいま説明のありました内容について、皆様からご意見やご質問等はありませんか。

○皆川委員

2 件のパブリックコメントについてです。

実施時期が重なっていますよね。ご意見を提出していただいた方、団体の数は少ない印象ですが、第4次基本計画と犯罪被害者等支援条例、それぞれのパブリックコメントで意見を提出した団体は、同じ団体でしょうか。また、各団体が提出した意見数を教えてください。

○事務局（下川原地域防犯担当係長）

パブリックコメントの趣旨から、団体が特定されることについてはお答えしかねるところです。申し訳ございません。

○皆川委員

匿名だということは個人情報保護の関係から理解していますが、同じ団体からなのか、何件なのか、それも教えていただけませんか。

○事務局（江積区政課長）

公表しております内容以上のことは、この場でお答えすることを控えさせていただきたいと思います。

○皆川委員

質問の趣旨としては、犯罪被害者等支援条例に対するご意見に、深い考察があると感じたのです。ご意見をいただいた団体が、第4次基本計画と被害者等支援条例それぞれのパブリックコメントに1団体ずつあるので、同じ団体なのかどうか知りたいと思いました。優良な団体であれば、いろいろなご意見をこの審議会で発してくれるのではないかと期待ができ、審議会の委員に就任いただく検討をされてはいかがか、と考えます。この件について、見解を聞けたらと思います。

○事務局（江積区政課長）

該当の団体についてのコメントは控えさせていただきますが、次年度以降、新たな委員について選考いたしますので、ただいまのご意見は参考にさせていただきたいと思います。

○神元会長

ほかにご意見やご質問はありませんか。

（「なし」と発言する者あり）

○神元会長

最後になりますが、各委員から、これまでの議論全体を振り返って、ご質問やご意見はございませんか。

（「なし」と発言する者あり）

○神元会長

これで本日の議事はすべて終了しました。

それでは、司会を事務局にお返しいたします。

3. 閉 会

○事務局（江積区政課長）

神元会長、大変ありがとうございました。委員の皆様も大変お疲れさまでございました。

また、今回の審議会をもちまして、今期の委員で開催する審議会は終了となります。皆様におかれましては、ご多忙な中、本市の安全で安心なまちづくりの推進に関してご協力をいただき、誠にありがとうございました。

次回の開催については、委員改選後、9月頃を予定しております。

それでは、以上をもちまして、令和6年度第4回札幌市犯罪のない安全で安心なまちづくり等審議会を終了いたします。

本日は、本当にありがとうございました。

以 上